

令和7年度 第1回 健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和7年8月27日（水）19時00分～21時00分
開催場所	横浜市役所 みなと1・2・3会議室
出席 者	健康横浜21推進会議 委員 15人
欠 席 者	健康横浜21推進会議 委員 5人
開催形態	公開（傍聴者無し）
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 会長選出</p> <p>4 議事</p> <p>（1）第3期健康横浜21ベースライン値に係る報告について</p> <p>（2）歯科口腔保健推進計画の目標値の設定について</p> <p>（3）第3期健康横浜21における関係機関・団体の取組及び今後の連携について</p> <p>5 報告事項</p> <p>（1）歯科口腔保健に関する取組について</p> <p>（2）食育推進検討部会の開催状況及び食環境づくりの取組について</p> <p>（3）女性の健康づくり推進検討部会の開催状況及び女性の健康づくり推進の取組について</p> <p>（4）健康経営の推進に関する取組について</p> <p>6 その他</p> <p>今後のスケジュールについて</p>
新委員紹介	<p>名簿3番目 横浜南労働基準監督署 小沼委員</p> <p>名簿4番目 横浜市保健活動推進員会 久保委員</p> <p>名簿5番目 横浜市歯科医師会 小杉委員</p> <p>名簿6番目 J A横浜 小林委員</p> <p>名簿11番目 横浜市スポーツ協会 武ノ内委員</p> <p>名簿18番目 横浜市医師会 水野委員</p>
会長選出	<p>（瀬戸委員）</p> <p>横浜市医師会の委員交代に伴い、横浜市医師会の水野委員を会長に推薦する。</p> <p>（一同）</p> <p>異議なし</p>
議 事	<p>【議事1】第3期健康横浜21ベースライン値に係る報告について</p> <p>資料3</p> <p>（水野会長）</p> <p>意見、質問について、御発言いただきたい。</p> <p>（一同）</p> <p>特になし。</p>

	<p>(水野会長)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあったと思うが、新型コロナウイルス感染症も明けたため、これから経過を追ってもらいたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>この議事について、内容を了承ということでよろしいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p>
	<p><b>【議事2】歯科口腔保健推進計画の目標値の設定について</b></p> <p>資料4</p>
	<p>(水野会長)</p> <p>意見、質問について、御発言いただきたい。</p> <p>(一同)</p> <p>特になし。</p> <p>(水野会長)</p> <p>この議事について、内容を了承ということでよいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p>
	<p><b>【議事3】第3期健康横浜21における関係機関・団体の取組及び今後の連携について</b></p> <p>資料5・6</p>
	<p>(水野会長)</p> <p>意見、質問について、御発言いただきたい。</p> <p>(一同)</p> <p>特になし。</p> <p>(水野会長)</p> <p>各団体から力を入れていることについて発言をいただきたい。</p> <p>—学校関係団体—</p> <p>(松本委員)</p> <p>横浜すばいす主催のお弁当コンクールの後援を通じて食育への理解を深めてもらうことの支援をしていく。</p> <p>中学校給食について、保護者への給食試食会を実施している。</p> <p>令和7年度以降は、子どもと保護者のメンタル面についての取組の必要性を感じているため、検討していきたい。</p> <p>市P連の事業は文化系が中心であったが、身体を動かすイベントの展開も今後検討をしていきたい。</p> <p>—職域関係機関・団体—</p> <p>(西尾委員)</p>

労働災害の第1位が転倒・腰痛である。転倒・腰痛対策について、企業のみでは対策が十分ではないため、理学療法士や健康運動指導士などの専門家が企業に訪問して中期的に伴走型の支援をしている。定年延長や、働き方の多様化・長期化が進んでおり、労働者の高齢化が進んでいる。女性・高齢者への支援にも重点を置いている。転倒・腰痛は特に力を入れていきたい。

(小沼委員)

過重労働・長時間労働から発生する心臓疾患や精神疾患についての労働災害は右肩上がりであるため重点的に取り組んでいく。数が多いのは転倒・腰痛災害である。女性・高齢者の就労が増えている。それとともに増加していると考えられる。女性は転倒すると骨折に繋がりやすく休業期間が長くなるため特に対策が必要と考えている。その他では、治療と仕事の両立支援も取組に入っている。取組の全体への周知として、企業を集めて集団支援をしたり、個別の指導をしたりするなど、両輪で対応している。

9月は全国労働衛生週間準備月間、10月1日から7日まで本週間として、リーフレットやホームページでも労働衛生分野で取り組んでいただきたいことを網羅し、展開している。

－企業－

(吉田委員)

食環境を推進するために横浜市と連携してお弁当を提供し、好評いただいている。青果売り場の近くでベジチェック測定を実施し、野菜摂取を促している店舗もある。アルコール関係については、成人は18歳であるが、飲酒は20歳からということで継続して買い上げの際の年齢確認をしている。

(須貝委員)

飲食業界全体として、特定健診の受診率の低さが課題であるため、神奈川県食品衛生国民健康保険組合と協力して特定健診の受診率の向上をするための啓発を行う。20歳未満への飲酒をさせない、勧めない事の啓発や飲食店での喫煙ルールを周知する活動も引き続き行う。食品衛生責任者に年に1度、最新の食品衛生や食中毒等についての知識を得ていただくため、e-ラーニングで研修を受けてもらっている。健康福祉局と連携して、飲食店での喫煙ルールの動画もe-ラーニングで流し、受動喫煙防止に関する啓発をしている。令和6年度は8000人が受講している。令和7年度も継続していく。

－地域関係団体－

(久保委員)

市全体の活動テーマを設定している。主要テーマは、「地域の健康づくり」としている。重点取組テーマとして、「重症化予防のための特定健診・がん検診の普及啓発」を掲げている。横浜市の国民健康保険加入者の令和5年度の特定健診受診率は28.1%であった。受診率が30%以上となることを目指しており、継続的な啓発が必要

であると考えている。各区のイベントなどの場を活用して特定健診の啓発や乳がん・大腸がん検診の啓発を行っている。

(米山委員)

食育をボランティア活動で啓発している。

令和6年度は、自然災害等の「もしも」の健康リスクに備えるため、日頃から災害に備えて食料品等の備蓄に努める市民が増えるよう、働き・子育て世代、実りの世代を中心に啓発をした。また、世代別に食を通じた生活習慣の改善や生活習慣病の予防に通じる事業の実施、予期せぬ事態で生じる生活様式の変化による生活習慣病やフレイル等の発症予防について、平時からの生活習慣の大切さについて啓発を実施。

令和7年度も全世代において「1日3食栄養バランスよく食べる」、「適正体重を維持する」を主テーマに食育活動を展開していく。また、働き・子育て世代・実りの世代を中心に、「もしも」の時に日常に近い食生活を維持するための備蓄やその備蓄品を使ったローリングストック方法など、「物」・「調理法」・「健康維持」の視点から啓発していく。

—マスメディア—

(長谷川由希委員)

新聞紙面で健康情報を発信している。9月のがん征圧月間にがん征圧キャンペーンとして特集を行っている。専門家に取材したり、座談会を開催したりするなど、がんについて討論して紙面に掲載している。予防や早期発見、治療についてなどテーマを決めて掲載している。今年度は9月20日頃に掲載予定している。また、毎週火曜日には、生活面の中で生活という切り口から健康に関する記事を多く掲載している。

健康情報は、特定の病気ではなく様々な情報を発信している。子どもが風邪をひいた場合の入浴、スマホ斜視、トラウマ・インフォームド・ケアなど話題のテーマについて専門家に取材して情報を発信している。

(伊藤委員)

「かながわMIRAIプロジェクト」として子育て支援をしている。神奈川県内で子どもが誕生した際に、申込制で出産お祝いBOX「はじめてばこ」を届けている。お届け先を会員とさせていただいており、その後会員に向けて月2回のメールマガジンを配信している。2020年からの取組で、7月に利用者が10万人を超えた。メールマガジンも約8万人に配信できている。メールマガジンの開封率が一般的には20%と言われるなか、40-50%程度開封してもらっているため、目に触れる媒体となっている。その他、乳幼児や妊婦を含む子育て世代向けの健康情報も発信したいと考えている。委員と連携して取材等ができる関係性ができると良い。

—保健医療関係団体—

(水野会長)

がん検診・特定健診の受診率向上と制度管理を目標としている。特に乳がん・肺がん・胃がん検診については、DX化を進めている。受診者への結果説明までの時間短縮を

するためのシステムの導入を進めていきたい。  
受診勧奨について、横浜市と連携して積極的にアピールしたい。アドバンスド・ケア・プランニング（人生会議）の普及活動を進めていく。

（小杉委員）

「生涯口から物を食べる」ことをスローガンとして各種取組をしている。乳幼児歯科健診について、今までではむし歯探しという観点だったが、現在は乳幼児の口腔機能の発達にも注目している。口腔機能の発達が進んでいないと、衰えが早くなる。そのため、将来のオーラフレイルを引き起こさないためにも、全世代で口腔機能には注目をしている。その他、歯周病と糖尿病との関係、その他全身疾患との関係を啓発していく。また、骨粗しょう症と歯科との関連の啓発や、口腔がんの早期発見のための歯科医師の育成にも力を入れている。歯科への「怖い」というイメージの払拭のため、よこはま動物園ズーラシアで親子体験型のイベントを実施した。その他では、障がい児者医療、児童虐待の早期発見にも注力していきたい。取組については、各団体と協力して進めていきたいと考えている。

（瀬戸委員）

禁煙支援薬局事業を継続し、特に受動喫煙防止には注力する。運動習慣の確立のため、葉草探索健康ウォーキングを11月に開催する。生活習慣病の重症化予防について昨年度糖尿病の重症化予防の研修会を開催した。医師会・看護協会・歯科医師会と連携して今年度も開催予定である。災害時の対策として、医師会と連携してイエローフラッグ事業を継続する。飲酒防止教室として飲み始めない、吸い始めないことを若い世代に伝えていく。横浜市からの依頼でフレイル予防薬局認証制度を開始した。研修を受けて認証を取得した薬局では、フレイルチェックができるほか、フレイル予防のミニ講座や食事指導などが受けられる。令和6年度はモデル区3区で実施したが、令和7年度から10区にひろがったため、注力して市民の健康増進に繋げたい。

（長谷川利希子委員）

神奈川県栄養士会のため、県全体の事業を行っている。その中に横浜市がある。令和7年度に新たに力を入れるのは、神奈川県栄養士会が加入している横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課の連絡会での活動。フレイル予防のフェスティバルが11月8日にある。医師会や県の関係団体との健康チャレンジフェアにも力を入れていく。

#### －医療保険者・医療保険関係団体－

（太田委員）

協会けんぽは中小企業の事業所が加入している団体であるため、10人未満の事業所がほとんどである。平均で従業員数7人未満の事業所である。小規模の事業所が多いため、事業所で受診勧奨ができていない場合も想定されるため、加入者に直接受診勧奨を行っている。健康診断の結果については、県や労働局と連名で健診結果の提供を依頼している。扶養家族の健診受診率は、本人の健康診断の受診率よりもかなり低い。扶養家族の健診はメタボ健診のみであり、がん検診は含まれていない。医師会や医療機関で特定健診を受けている際に一緒にがん検診が受けられるような啓発や、

集団検診ができるような機会も作っている。骨粗しょう症検診や眼底検査など、オプションで検査項目を追加し対策している。

令和7年度は女性限定の健康診断ができないかと考え、より魅力的な会場として、ホテルを利用することも検討している。年度当初の受診勧奨案内の際に横浜市のがん検診も受けるように啓発媒体を同封している。次年度は横浜市以外の市町村の検診案内についても同封できるようにしたいと考えている。

また、かながわ健康企業宣言として、健康経営に関する取組の宣言をしてもらいフォローアップをしている。フォローアップの一環として運動や食生活などの健康講座やオンデマンド講座の提供をしている。令和7年度は健康講座を2講座追加した。

「転倒・腰痛」・「治療と仕事の両立支援」・「メンタルヘルス対策」等の講座を産保センターと連携して実施している。協会けんぽが推進している健康企業宣言と横浜市の健康経営認証の連携を進めたいと考えている。

(佐藤委員)

国保の保険者が実施している保健事業の支援を行っている団体である。国保の特定保健指導の受診率が低いことが課題となっており広報や保健事業ともに特定健診・特定保健指導の受診率の向上に力が入っている。広報物としてポケットティッシュやウエットティッシュを作成し、横浜市のイベント等で活用していただいている。横浜市には令和7年度分として55600個送付している。健康まつり関連として、健康機器の貸出を行っている。骨密度測定器や血管年齢測定器、体組成計や脳年齢測定器等の貸出を実施している。自治体向けとして、ヘルスサポート事業を実施している。大学教員などの有識者を支援・評価委員として自治体の保健事業の実施状況についてヒアリングし、助言をしている。横浜市からも1件依頼があり9月に助言を実施予定である。12月にはフォローアップ研修を実施予定。KDBシステムについては、初任者向けに操作説明の研修や高齢者の保健事業と介護の一体的実施の研修について少人数で実施している。

(水野委員)

他団体との連携についてディスカッションしたい。

学校分野について、よりよい活動や情報の周知に協力していきたいということであるが、何か発信していきたい情報はあるか。

(松本委員)

横浜市のPTAとして、保護者向けの支援が主眼。家庭での保護者と子どもとの関係や保護者のメンタル面について、不登校についても要因が様々であるため、子どもや保護者が受けているダメージについて、難しいが取り組んでいきたい。具体的な取組として、医師会など関係団体から講義をすることが良いのか、個別支援がいいのかなど現時点では漠然と課題を感じている。

(水野委員)

子どもの不登校やそれを支える保護者のメンタルを支える研修などを一緒に取り組んでいきたい。取組を他団体に周知してもらうなど連携を拡げていけると良いと思

う。

(米山委員)

子どもと保護者のメンタル面の支援について、食育も間接的に寄与できるのではないかと考えた。メンタル面を直接支援するために取り組むことも一つの手段であるが、メンタル面の不調には親子関係も関係している可能性があると感じており、働き・子育て世代に食育の知恵を習得してもらえるような啓発を実施し、親子の会話の話題にしていただくことで親子関係の改善につながることもあるのではないかと考えている。子ども時代からの食育の大切さも感じており、保護者に食育を考えてもらえると良いと思う。働き・子育て世代は共働きも多く、忙しそうであることを感じている。その様な状況でも健康を保つことができる知恵や知識をヘルスマイトから伝えられる部分もあると思う。ヘルスマイトが各区のPTAに出向いて話ができる機会が持てるとありがたいと考えている。

(松本委員)

子どもたちには、食育など様々なテーマに関する学習の機会がある。保護者など大人に対する食育はあまり機会がないので面白いと思う。大人に対する教育や学びの機会が求められているとの話題もPTAでは出ているため、ありがたい提案である。

(水野委員)

PTAとヘルスマイトで連携が検討できると良いことだと思う。

産業保健分野について、他団体との連携について考えはあるか。

(西尾委員)

治療と仕事の両立支援については関係機関と一層連携していきたい。治療と仕事の両立支援の取組は、「がん」から始まっているが、職域での治療と仕事の両立支援の対象は、継続・反復する疾患全てが対象となっている。神奈川県、横浜市についてはがん対策支援法に基づく計画を策定している。その計画と産業保健総合支援センターの治療と仕事の両立支援は親和性が高いため、自治体の医療分野と産業保健総合支援センターの連携は継続して深めていきたい。健康経営の分野でも両立支援を進めている。個別事例の相談というよりも、従業員が治療をしながら仕事をする際に、通院や検査・手術をする機会があっても柔軟な働き方ができるように、制度などの環境を整えてもらうという支援である。医療分野とは患者支援、健康経営など健康増進分野とは企業経営者支援と捉えて連携を進めている。

(小沼委員)

行政の制度について、事業所にアプローチはしているが、労働者まで行き届いているかが不明瞭。事業所には、制度を整えなければ従業員の不健康を招き、それが事業所の負担を増すという悪循環になることに気付いてもらいたい。具体的な取組の検討はこれからであるが、関係団体と連携させてもらう可能性はあると思う。社会福祉施設向けに9月11日の午後に講習会を開く予定で、管理栄養士からの栄養についての講話や社員と取り組む腰痛予防についても講話がある。また、11月には治療と仕事の両立支援についてのセミナーもある。そのようなセミナーで健康情報の発信など連携できそうである。日頃の健康管理や健康診断について、定期的に周知していきたい。

	<p>従業員の健康に意識を向ける余裕のない事業主もいるため、労働者自身にアプローチすることも必要だと感じており取組を検討していきたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>事業者へのアプローチについて話があったが、保険医療関係者から何かあるか。</p> <p>(太田委員)</p> <p>協会けんぽでは健康診断を実施しているため、健診結果や問診の結果を見ることができる。協会けんぽ神奈川支部の加入者は、全国的に見ても喫煙・飲酒の要改善者の割合が高い。また、食生活の状況も要改善者の割合が高い。そのような状況への対応として、忙しいと料理を作ることが大変であるため、令和6年10月から「ヘルシー時短レシピ」を作成している。協会けんぽは事業所への広報はできるが、加入者への直接的な周知は難しい。関連団体に広報の協力を依頼しているところであり、ぜひ広報媒体がある場合は連携していただきたい。協会けんぽのメールマガジンも活用していただけるので、広報の双方向の関係ができると良いと思う。</p> <p>メールマガジンは25000人の会員、LINEは3000人程度の登録者であり、周知にまだまだ不十分であるため、広報に御協力をいただけるとありがたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>食の関係で、現状実施している連携について、さらなる連携の可能性など、何か意見はあるか。</p> <p>(吉田委員)</p> <p>横浜市と連携して進めているハマの元気ごはんについては、お弁当に限らずレストランなどでも登録が開始されている。市内で登録がより拡がっていくことが大切である。ゆくゆくは家庭でもできそうということにつながると良いと思う。横浜市の人口を考えると、もっと拡大できると良い。</p> <p>(水野会長)</p> <p>色々なメディアで発信できると良いがマスメディア関係はどうか。</p> <p>(伊藤委員)</p> <p>発信できる内容があれば、声をかけてもらいたい。ただし、報道分野については、限られた時間で対応しているため、必ず放映できるかどうかの保証はできないが、まずは声をかけてもらえると良い。</p> <p>(水野会長)</p> <p>地域関係団体から連携について何かあるか。</p> <p>(久保委員)</p> <p>保健活動推進員会では、研修を重ねてイベントなどでがん検診などの啓発をしている。例えば乳がんの模型を使用して、しこりに触れる体験などをしてもらっている。イベント参加者に向けて、ある程度の啓発は可能であるが、専門的な内容を質問された場合は、医師会や歯科医師会などの専門家に確認するように促している。例えば喫煙関係に関しても、個別相談への対応など、対応に困る点は専門家や団体の力を借りたい。</p> <p>(水野委員)</p>
--	---

	<p>地域活動に保健医療団体として協力していきたい。</p> <p>マスメディアについて、乳児・幼児向けの健康や食育情報に関して配信をしていきたいという意見があるが、そのことに関して意見はあるか。</p> <p>(米山委員)</p> <p>ヘルスマイトとしては、生活の中で学んだ知恵を発信していきたいという思いがある。その様な機会があると良い。栄養士ではないが、地域密着型の活動をしているので、区単位でも対応が可能であり、機会があると良い。</p> <p>(長谷川利希子委員)</p> <p>栄養士会は職能団体。色々な職域の栄養士が関わっている。学校や病院など所属は様々である。職域が様々であるため、講座の依頼などがあれば色々な職域の栄養士が協力できる。以前もテレビ番組に協力したことがある。</p> <p>(伊藤委員)</p> <p>マスコミというと広く多くの人が対象ということに見えるが、メールマガジンは乳幼児の子育て世代がターゲットであるように、ターゲットに合わせた健康情報を届けていきたい。</p> <p>(長谷川由希委員)</p> <p>新聞は、広く多くの人に周知することがメインではある。がん啓発の特集については4ページの紙面を割くため、かなり力を入れている。2、3か月前からテーマを絞って取材するため、そのあたりに情報提供があればよい。必ず掲載できるというわけではないが、情報提供いただけたとありがたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>小杉委員より、他団体に協力することで歯科を通した健康寿命延伸を図りたいと示していただいたが、この件について意見はあるか。</p> <p>(小杉委員)</p> <p>食べることに関しても口の中の健康についてはかなり重要な要素である。今までヘルスマイトや各区の栄養士と食と歯・口腔について連携をしたことがある。保健活動推進員に協力依頼をしたいのは、「オーラルフレイル」という用語を地域に周知してもらいたいということ。横浜市における「オーラルフレイル」という言葉の認知度は26%で、少しづつ向上してきているがまだまだ推進が必要である。まずは言葉を知っていただき、オーラルフレイルに該当するかどうかはチェック項目が掲載された媒体などを見てもらえるように促してもらえると良い。障害児者への対応や虐待児発見への対応などについても様々な団体と連携する必要があるので、協力をお願いしたい。</p> <p>(久保委員)</p> <p>現在も保健活動推進員の研修では歯科・口腔について実施している。保健活動推進員自体は「オーラルフレイル」について知っている人が多いと思うが、更に周知すると共に、啓発を充実させていきたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>禁煙・受動喫煙について、連携に関する意見はあるか。</p>
--	--

	<p>(瀬戸委員)</p> <p>禁煙支援薬局事業を16年間実施している。毎年登録薬局向けの研修会を開いており、その中で有識者から様々な講義をしてもらっている。禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議とは、お互いの事業の内容や活動の広報や講師なども含め連携をお願いしたいと考えている。他の団体にも禁煙・受動喫煙について連携がお願いできると良い。</p> <p>(水野委員)</p> <p>禁煙・受動喫煙に関しては、健康増進として発信できる機会があると思うので、積極的に取り組めると良い。医療保健団体との連携について他に何かあるか。</p> <p>(長谷川利希子委員)</p> <p>オーラルフレイルについては神奈川県の歯科医師会・歯科衛生士会と一緒に健康チャレンジフェアで協力してスタンプラリーなどを使って啓発する予定である。噛み応えのある食品はフレイル予防にもつながるため、パンフレットを作成した。しっかりと噛める歯を持つことと栄養を併せて啓発していきたい。日本栄養士会はJDA-DATという災害支援活動チームを持っており、神奈川県栄養士会にもある（神栄DAT）。災害時の簡単な調理や備蓄食品についての紹介をしている。今までヘルスマイトさんと連携して災害時の食に関する啓発をしてきたため、引き続き連携していきたい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>医療保険者では、それぞれの健康課題の解決に向けた取組をしているが、女性の健康という課題についての連携に意見はあるか。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>国民健康保険の保険者の支援をする団体のため、他団体への直接的な連携は難しい。</p> <p>(水野会長)</p> <p>その他意見はあるか。</p> <p>(一同)</p> <p>特になし。</p> <p>(水野会長)</p> <p>分野ごとの議論をした。食生活などの様々なテーマ別、世代別の話題が出た。本日の会議をきっかけに、各団体の連携がさらに活発になり、市民の健康づくりが推進されていくことを願う。</p>
報告事項	<p>(1) 歯科口腔保健に関する取組について</p> <p>(2) 食育推進検討部会の開催状況及び食環境づくりの取組について</p> <p>(3) 女性の健康づくり推進検討部会の開催状況及び女性の健康づくり推進の取組について</p> <p>(4) 健康経営の推進に関する取組について</p> <p>(水野会長)</p> <p>事務局からの報告に質問や意見がある委員はいるか。</p>

	(一同) 特になし。
閉会	(事務局) 推進会議は年1回であるが、メールなどで随時情報を共有する。他団体に連携したい内容などがあれば随時連絡をしてほしい。 本日はこれにて閉会とする。
資料	資料1 健康横浜21推進会議 委員名簿 資料2 健康横浜21推進会議運営要綱 資料3-1 第3期健康横浜21ベースライン値に係る報告について 資料3-2 第3期健康横浜21 指標・目標値 一覧表 資料4 歯科口腔保健推進計画の目標値の設定について 資料5 第3期 健康横浜21 関係機関・団体情報共有シート 資料6 第3期健康横浜21関係課長会議の議事報告について 資料7 歯科口腔保健に関する取組について 資料8 食育推進検討部会の開催状況及び食環境づくりの取組について 資料9 女性の健康づくり推進検討部会の開催状況及び女性の健康づくり推進の取組について 資料10 健康経営の推進に関する取組について 資料11 第3期健康横浜21推進スケジュール 資料12 第3期健康横浜21ダイジェスト版初校 資料13 禁煙支援・受動喫煙防止対策事業について 資料14 糖尿病等の重症化予防事業について 資料15 よこはまウォーキングポイント事業について 資料16 広報・プロモーションの取組について